

2009年8月30日 講義2

講義タイトル：カメルーンにおける JICA 協力の概要

講師：安城康平氏（JICA カメルーン支所長）

キーワード：国際協力、開発、コミュニケーション、JICA、青年海外協力隊

#### 要約

本講義は、前半部が安城康平氏（JICA カメルーン支所長）によるカメルーンにおける JICA 事業の概要説明、後半部が「グローバル化する国際社会において、開発や協力はどうか」というテーマで、学生とのディスカッションが行われた。以下、前半部と後半部にわけてサマリーを作成する。

#### [前半部：カメルーンにおける JICA 事業の概要]

2006年に JICA カメルーンオフィスが設立され、現在、3つのスキーム(無償資金協力、有償資金協力、技術協力)で開発協力が展開されている。無償資金協力では、2006年以降、それまで日本政府が行ってきた事業を JICA が引き継ぐ形で、地方での給水活動や小学校建設、漁港の整備といった、人間の安全保障にかかわる草の根レベルでの事業が展開されている。有償資金協力では、2008年以降、アフリカ開発銀行との協調融資のもと、道路整備などのインフラ建設が積極的に行われている。技術協力では、ボランティアの派遣や開発調査による投資環境の把握、整備とそれに基づく地場産業の振興に力を入れている。

これからの事業の重点分野としては、人的資源開発による内発的発展の促進、地場産業の振興による経済発展、農村開発による地方の発展などが挙げられた。また、事業展開の留意点としては、現地のニーズへの的確な対応、社会・文化的背景への配慮、他ドナーとの協調が挙げられた。

開発協力の重点がアジアからアフリカに移り、我が国も福田政権下における TICAD IV（第4回アフリカ開発会議）でアフリカへの重点的支援を約束した現在、「開発の最前線」としてのアフリカの開発協力の現状と課題について、行政責任者の生の声を聞いたことは、学生たちにとって大変刺激になったと思われる。

#### [後半部：ディスカッション]

ディスカッションは、3人の青年海外協力隊(小学校隊)の方々も交えて、グローバル化する国際社会において開発や協力はどうか、また日本人として地球人として、これにどう関わっていくべきかというテーマで行われた。学生からは「そもそも開発や協力とは何か?」といった開発協力の本質に迫るような質問が出された。安城氏は「すべての人が恩

恵を受ける、ダイナミックな開発を進める」という JICA の開発協力の理念に触れたうえで、開発協力とは「コミュニケーションである」とし、異文化間の交流とそこで行われる対話＝コミュニケーションこそが開発協力であるとされた。

ディスカッションのテーマは、時宜を得たものであったが、時間的な制約や講師が JICA 支所長であるという立場からか、もうひとつ議論することができなかった。しかし、これからの開発協力のあり方やそれへの関わり方について、学生一人一人が考える時間を持てたことは非常に有意義であったらう。

(報告者：山部健介)